



# 昭和医科大学歯学部だより

2026年4・5月号

通算第240号

## 巻頭言

＜歯学部長 馬場 一美＞



本年度、昭和医科大学では、新たな教育環境のもと、教育改革への取り組みを本格的に始動しました。昨年度完成した富士吉田キャンパス新実習棟では、アナトマージテーブルを用いた解剖学実習をはじめとする最新技術を活用した基礎医学教育を展開し、臨床へのシームレスな連携教育をさらに拡充してまいります。また、歯学部教育においては、「基礎学力の底上げと次世代リーダーの育成」を基本方針に掲げ、基礎実習から臨床実習への円滑な接続、リサーチマインドの涵養、国家試験ストレート合格率の向上に取り組むとともに、教育評価方法の抜本の見直しを行い、教育システム全体の質的向上に努めてまいります。さらなる飛躍に向け、本年度も皆様方のご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

躍に向け、本年度も皆様方のご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

## 入学式が挙行されました

＜歯学部長 馬場 一美＞

令和8年4月10日、本年度の入学式が明治神宮会館にて厳かに挙行されました。歯学部には、新たに100名の新入生と3名の編入生を迎え、希望に満ちた門出となりました。式典は、昭和医科大学管弦楽団による演奏で華やかに開幕し、上條学長の告辞、小口理事長からの祝辞へと続きました。上條学長からは関東大震災の経験を引用しながら建学の精神、多様性を認めることの重要性について、小口理事長からは医系総合大学としての本学の使命について、お話があり、新入生への期待と歓迎の気持ちが伝えられました。さらに、昭和医科大学宣言、校歌斉唱が行われ、大学の理念と伝統が新入生に力強く伝えられました。続いて、在学生による歓迎の言葉、Medical All-Stars Jazz Orchestra による演奏、応援指導部からのエールが贈られました。その後、内田樹理事による特別講演が行われ、示唆に富んだお話が新入生の胸に深く刻まれ、入学式は閉会となりました。その後、新入生たちはバスに分乗し、富士吉田へと向かいました。昭和医科大学の一員として新たな一歩を踏み出したすべての新入生が、これからの学生生活を実りあるものとされることを、心より祈念申し上げます。



- |     |   |   |
|-----|---|---|
| P.1 | 【巻頭言】<br>【入学式が挙行されました】                        | 歯学部長 馬場 一美教授<br>歯学部長 馬場 一美教授                                    |
| P.2 | 【大学院入学式が挙行されました】<br>【白衣授与式が執り行われました】          | 歯学研究科長 高見 正道教授<br>教育委員長 船津 敬弘教授                                 |
| P.3 | 【上條賞を受賞しました】<br>【大学院上條賞を受賞しました】<br>【教授就任のご挨拶】 | 歯科病院研修医 藏本 結美子<br>顎顔面口腔外科学分野 中島 和希<br>口腔機能リハビリテーション医学部門 伊原 良明教授 |
| P.4 | 【研究紹介】<br>【受賞】【行事予定】<br>【編集後記】                | 障害者歯科学部門 嘉手納 未季准教授<br>広報委員長 柴田 陽教授<br>口腔病理学部門 石田 尚子             |

## 大学院入学式が挙行されました

＜歯学研究科長 高見 正道＞

令和8年4月4日(土)午前10時より、昭和医科大学大学院入学式が上條記念館において挙行され、医学研究科42名、歯学研究科30名、薬学研究科18名、保健医療学研究科18名(修士課程15名・博士後期課程3名)の計108名が新たな道を歩み始めました。上條由美学長は、「医療の現場を正しく認識し、それを科学の言葉に変え、研究においてもチーム医療を実践してほしい。」と述べ、小口理事長は「この第一歩は本当に価値のあることです。修了まで一緒に走っていきましょう。」と士気を高めました。式典後のオリエンテーションでは、大学院運営委員長の中村史朗教授が「研究が思うように進まないこともあると思いますが、試行錯誤を繰り返しながら、粘り強く取り組んでください。」と激励しました。研究者としてスタートした皆さんが充実した大学院生活を送れるよう、歯学研究科長として心から応援しています。



## 白衣授与式が執り行われました

＜教育委員長 船津 敬弘＞

令和8年3月23日に上條記念館において5年生への白衣授与式が執り行われました。馬場歯学部長からは、実習に協力いただき患者さんへの感謝の気持ちを常にもって実習に取り組んでほしいとの告辞があり、その後96名の学生は8名の診療科長より手渡された白衣を着用して式が進められました。祝辞では、上條学長から校歌の「白衣」に込められた意味を考えながら、至誠一貫の精神で患者さんに向きあってほしいことを、小口理事長からは、医療人としてプロフェッショナリズムを持ち、社会に貢献できる歯科医師を目指してほしいとのお話があり、学生たちは臨床の場へ出ていく気持ちを新たにしていたようです。学生諸君には将来を見据えて、実りある一年を過ごしていただきたいと思います。



## 上條賞を受賞しました

<昭和医科大学歯科病院研修医 藏本 結美子>

この度は、上條賞という名誉ある表彰をいただけたこと、大変光栄に思います。日々の学びを支えてくださった先生方、職員の皆様、互いに切磋琢磨した仲間たちの存在あってこそその結果です。大学生活を振り返ると、最も力を注いだことは日々の学業でした。講義や実習に取り組む中で、自ら課題を見つけて考える姿勢を大切に、理解を積み重ねてきたことが今回の結果に繋がったのだと感じています。昭和医科大学での経験を通して培った姿勢を糧に、現状に満足することなく自己研鑽を続け、患者さんに真摯に向き合い信頼される歯科医師へと成長していきます。最後になりますが、多大なるご指導とご支援を賜りましたこと、心より御礼申し上げます。



## 大学院上條賞を受賞しました

<顎顔面口腔外科学分野 中島 和希>

この度は、上條賞という名誉ある賞を賜り、誠に光栄に存じます。私の学位論文では、歯胚や味蕾、唾液腺などの口腔関連器官の誘導基盤となり得る、ヒト iPS 細胞由来胎生期口腔上皮の高効率な誘導法の開発に取り組みました。大学院在籍中には、学会発表や研究者の先生方との議論を通じて貴重な経験を得ることができ、今後の歯科医師としての歩みにおいて大きな財産になると実感しております。本受賞は、これまでの研究活動を評価していただいた結果であり、大変嬉しく存じます。本研究を進めるにあたり、多大なるご指導とご支援を賜りました大場誠悟教授(顎顔面口腔外科学部門)、美島健二教授(口腔病理学部門)、田中準一准教授(口腔再生医学部門)に深く感謝申し上げます。



## 教授就任のご挨拶

<口腔健康管理学講座 口腔機能リハビリテーション医学部門 伊原 良明>

このたび、2026年4月1日付で、昭和医科大学口腔健康管理学講座口腔機能リハビリテーション医学部門の教授を拝命いたしました、本学26回生の伊原良明と申します。当講座は、まだ開設から20年に満たない若い教室です。しかし、医系総合大学の特色を最大限に活かし、医科や保健医療学など多様な職種と連携した実践的なチーム医療に日々取り組んでおります。この恵まれた環境のもと、今後は次世代を担う人材の育成をはじめ、臨床や研究の更なる発展に向けて尽力して参る所存です。これまでの皆様からの温かいご支援に心より感謝申し上げますとともに、今後とも変わらぬご指導とご鞭撻を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。



## 研究紹介 ～障害者歯科学部門～

<全身管理歯科学講座 障害者歯科学部門 嘉手納 未季>

障害者歯科には知的障害や発達障害、全身疾患等により地域の歯科医院では治療を受けることのできない患者さんが来院されます。安心安全に歯科治療を提供し、患者さんの生活の質を保証するため、臨床研究、基礎研究は重要と考えております。現在、口腔解剖学講座とマウスを用いた顎下腺導管の変化について、口腔生理学講座とドーパミンによる閉口筋運動ニューロンへの影響について共同研究を行っており、また歯科用切削器具の音に対する精神的影響の分析、自閉スペクトラム症患者さんへのトークンエコノミーを用いた行動変容法の開発に取り組んでおります。今後も障害者歯科医療の発展に貢献できるよう研究を続けてまいります。



## 受賞

<広報委員長 柴田 陽>

歯科理工学会学術講演会 企業賞(株式会社トクヤマデンタル賞) 辻上 陽平(歯内治療学分野)

## 行事予定

<広報委員長 柴田 陽>

5月31日(日)学祖祭, 6月13日(土)昭和医科大学学生後援会 幹事会・総会

6月27日(土)昭和医科大学学士会例会(歯学部会主催), 歯学研究科研究内容中間報告

7月9日(木)歯学研究科進学説明会, 7月11日(土)歯学部入試説明会

## 編集後記

<口腔病態診断科学講座 口腔病理学部門 石田 尚子>

初夏の日差しに、木々の緑が映えるこの頃、春から新生活を迎えた方も多いかと思いますが、皆様はいかがお過ごしでしょうか。季節の変わり目ですので、ご体調どうかご自愛ください。末筆ながら、ご多忙中、ご寄稿頂いた先生方に厚く御礼申し上げます。

昭和医科大学 歯学部だより 通算240号 2026年5月発行

発行責任者：歯学部長 馬場 一美 編集責任者：広報委員会委員長 柴田 陽

4・5月号編集委員：石田 尚子(広報委員会)

〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8 TEL：03-3784-8000

ホームページ：https://www.showa-u.ac.jp